

European Association of Environmental and Resource Economics Annual
Conference 2011, Pre-Conference on Waste Economics 研究報告・参加

福島大学 経済経営学類
沼田 大輔

このたびは、「European Association of Environmental and Resource Economics Annual Conference 2011 (ヨーロッパ環境資源経済学会 2011 年次大会), Pre-Conference on Waste Economics 研究報告・参加」について、廃棄物資源循環学会学術研究委員会若手渡航支援事業のご支援を頂き、誠にありがとうございます。以下、ご支援頂きました渡航につきまして下記のとおりご報告させていただきます。

1. ヨーロッパ環境資源経済学会について

(<http://www.eaere.org/> で詳細を見ることができます)

1990年に設立された環境経済学のヨーロッパにおける主要学会です。ヨーロッパ環境資源経済学会年次大会は、環境資源経済学関係の研究交流等を目的に開催され、4年に1度開催されるWorld Congress of Environmental and Resource Economists (環境資源経済学世界大会)が行われない年に毎年開かれている大規模な国際学会です。国際色が豊かで、今年の年次大会においても、ヨーロッパだけでなく、アメリカ・アフリカ・アジアなど世界中から研究者が参加し、日本からも多くの研究者が参加していました。

2. ヨーロッパ環境資源経済学会 2011 年次大会について

(<http://www.eaere2011.org/> で詳細を見ることができます)

- ・ 場所：イタリア・ローマ大学経済学部
(Faculty of Economics, University of Rome “Tor Vergata”)
- ・ 期間：2011年6月29日～7月2日(4日間)
 - Pre-conferenceは6月29日、Main conferenceは6月30日から7月2日
- ・ 内容の概要：
 - Pre-conferenceは2種類(廃棄物関係、生物多様性関係)、合わせて5セッションで、17の報告がありました。
 - Main conferenceは、環境資源経済学関係の様々な内容が取り上げられていました。例えば、気候変動、国際環境協定、排出権取引、エネルギー、環境税、環境評価、費用便益分析、技術、環境と成長、資源、森林管理、生物多様性、持続可能性、廃棄物、貿易と環境、輸送、農業などがありました。
 - 6月30日は35のparallel sessionと会長講演がありました。また、エネルギー・環境・経済成長に関する計量経済学的分析についてのPlenary Sessionがありました。
 - 7月1日は52のparallel sessionがありました。また、Plenary Sessionは、メカニズムデザインと呼ばれる分野で2007年にノーベル経済学賞を受賞したErik Maskin氏のレクチャーで、オークション理論を温室効果ガスの排出削減の検討に適用しようとするもので、

質疑が活発におこなわれ、大盛況でした。

- 7月2日は35の parallel session がありました。Plenary session では気候変動に関する政府間パネル(Intergovernmental Panel on Climate Change)で有名な Carlo Carraro 氏など、著名な方々が登壇し気候変動に関するパネルセッションが行われました。
- 今回の Conference の投稿論文数は約 1400 で、採択論文数は約 600 とのことで、日本からも多数の報告がありました。ポスター発表は 34 あり、Main conference のいずれの日においてもポスター発表の時間が設けられていました。
- 今年の年次大会を見ているかぎり、Conference 全体として、報告内容の多くは、環境問題について、経済学の理論的研究、また、それをベースとした実証研究であり、廃棄物関係もそうでした。
- ・ なお、上記の Pre-conference および Main conference で報告された論文は全文を <http://www.webmeets.com/EAERE/2011/Prog/> のページからプログラムとともに見ることができます。

3. 廃棄物関係のセッションについて

- ・ 廃棄物関係の Pre-conference は、6月29日の午前から夕方まで3セッション行われました。同日に他のセッションがほとんどなかったためか、Main conference での parallel session よりも随分フロアの人数が多かった。ホスト大学であるローマ大学の D'Amato 氏、および Ferrara 大学の Mazzanti 氏がオーガナイザーを務めた。このような Pre-conference が行われたことは、廃棄物関連の経済学的な研究をおこなう研究者にとって非常に貴重な機会であった。Pre-conference では、例えば次に示すような様々な報告があった：グローバル・リユースの理論モデル、廃棄物税の政治的費用の研究、家計の廃棄物削減やリサイクル等についての実証分析。
- ・ 6/30の午後には、waste economics and policy というセッションがあり、廃棄物関連の報告が活発に行われました。座長は東北大学の馬奈木氏でした。なお、馬奈木氏から、日本の環境経済・政策学会の英文誌である、Environmental Economics and Policy Studies で廃棄物関連の特集号の論文募集がおこなわれていることが紹介されました。馬奈木氏と6月29日の Pre-conference のオーガナイザーを務められた D'Amato 氏および Mazzanti 氏が Editor を務められる予定とのこと。詳しくは、Environmental Economics and Policy Studies (Springer) Call for papers, Special issue on 'Economics of Waste Management and Disposal: Decoupling, Policy Enforcement and Spatial Factors' (http://www.eaere.org/files/conf/2011_08_journal_EEPS_Call_final.pdf) を参照ください。
- ・ 廃棄物関連の報告は、Crime and environment というタイトルのセッションにおいても多く見られました。犯罪と廃棄物を関係させる研究が多く、マフィアに関連する変数が理論モデルにおいて明示的に出てきたのは興味深かった。そのほかに、economic analysis of the management of hazardous chemical substances というタイトルのセッションで、水銀の排出削減の便益評価、鉛の子供への暴露等、有害物を扱う報告も見られました。

4. 沼田の報告、および成果の公表予定

沼田は、馬奈木氏との共著で、**Pre-conference** で口頭発表を行ないました。ワンウェイのペットボトルをリユース可能なペットボトル（以下、リユースボトル）にすることで、環境負荷を下げられうると言われています。このため、最近、日本では、リユースボトルの導入が検討され、環境省によって実証実験もおこなわれました。リユースボトル導入の障害の一つが、消費者がそれらを受け入れるか否かということです。筆者らは、この消費者が受け入れるかという点について、上述の環境省の実証実験において、消費者にアンケート調査を複数回おこない、そこで得たデータをもとに、実証実験の現場視察を重ねつつ、実証的に検討した結果を報告しました。なお、本報告の論文は、<http://www.webmeets.com/EAERE/2011/Prog/viewpaper.asp?pid=518> で見ることができます。今後は、この論文を、今回の報告を受けて改訂し、ジャーナルに投稿する予定です。

5. Social Event

今回の conference では、何らかのイベントが毎日夕方に開催され、質・規模ともに素晴らしかった。6月29日には welcome cocktail と称するパーティーが、ローマ大学経済学部の建物の屋上で行われました。6月30日は Gala Dinner が Villa Giulia 博物館の中庭を貸し切って行われました。Gala Dinner では、Villa Giulia 博物館を見て回ることができ、ビュッフェスタイルでの立食パーティーとテーブルに着席しての Dinner もありました。7月1日はローマ大学の植物園見学が準備されており、7月2日は Farewell Party が屋外のカラカラ浴場という観光地で、立食形式でおこなわれ、クラシック・コンサートを聞くこともできました。

6. 今後の学会の開催予定

来年はチェコ共和国のプラハで6月27日から6月30日まで行われます。詳しくは <http://www.eaere2012.org/> を参照ください。